

続く挑戦、未来をつむぐ

大雄会の挑み人

スタッフ特別インタビュー



総合大雄会病院

集中治療室

高度治療室

ICU・HCU

看護師長

社会医療法人大雄会 総合大雄会病院 ICU・HCU看護師長。岐阜大学医学部附属病院勤務を経て2009年総合大雄会病院入職。2013年「集中ケア認定看護師」取得、2018年「特定行為研修（救急・集中ケア）」修了。2021年より「医療安全全国共同行動『急変時の迅速対応』技術支援委員」、「集中治療医学会東海北陸支部連絡協議会委員」を務める。

※所属・肩書等は取材時（2023年9月時点）のものであります。

続く挑戦、未来をつむぐ。



社会医療法人
大雄会

大雄会は、共に未来をつむいでいく仲間を募集しています

募集職種・条件等は、お気軽に
採用担当までお問い合わせ下さい

採用担当
直通電話

0586-24-8891

受付（平日のみ）
8:30～17:30



大雄会ではどんなお仕事をされていますか？

現在は救命救急センター内のユニット病棟であるICU（集中治療室）とHCU（高度治療室）の看護師長をしています。救急搬送される患者様が多く入院されており、交通外傷や心筋梗塞・クモ膜下出血など緊急入院になった患者様に対して看護を提供しています。突然の入院はご家族様にとっても不安が大きいので、患者様ご本人だけでなくご家族様へのお声かけも大事な看護だと考えています。退院前にICUやHCUに寄って、元気な顔を見せてくださる患者様もいらっしゃいます。それはとても嬉しい場面のひとつです。



大雄会でのお仕事のやりがいを教えてください。



大雄会には総合大雄会病院、大雄会第一病院、老人保健施設アウン、訪問看護ステーション・アウンなど特徴の異なる施設が複数あり、興味あるフィールドでチャレンジできることが魅力のひとつだと思います。私は超急性期～急性期看護に興味があり、10年ほど前に「集中ケア認定看護師」になりました。その後「特定行為研修」を修了し、引き続きICUとHCUでその学びを“患者様への看護”と“後輩指導”に活かしています。「リカレント教育（※）」をサポートしてくれる体制も、大雄会の大きな特徴だと思います。

私もこの仕組みを活用し学ばせていただきました。新たな学びが、患者様へ提供する看護や後輩への指導に活かすことができることは、毎日の仕事の大きなやりがいに繋がっています。

（※社会に出た後も必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと）

看護師になろうと思ったきっかけは何ですか？

保育園の卒園文集には既に「かんごふさんになりたい（※）」と書いてあります。母が看護補助者をしており、当時から看護師に憧れていたのかもしれませんが、幼い頃に抱いていた将来像が現実になっているのは不思議な気持ちです。多くの職種の方々と協働する「看護師」という職業は、責任もありますが良い緊張感で楽しく向き合える仕事です。もし母が看護補助者でなければどんな職業を選んでいたのか分かりませんが、「この仕事がしたい！」と思うきっかけは、意外と身近なところにあるのではないのでしょうか。

（※現在の「看護師」は当時「看護婦」という名称でした）

今後、大雄会でどんなことに挑戦したいですか？

私はクリティカルケア（※）領域の看護が大好きです。その領域の看護を深く知りたくて集中ケア認定看護師になりました。そして5年後、特定行為研修制度に看護の新たな可能性を感じ、新たな学びを得るという挑戦をしました。これまでの「学習」という挑戦は患者様に質の高い看護を提供するための糧となり、後輩への指導にも役立っています。そして今年度、新たな挑戦として一宮研伸大学大学院で看護管理について学んでいます。仕事を続けながら大学院で学ぶことができるのは、リカレント教育をサポートしてくれる大雄会と周囲の方々の協力があってこそです。これからは看護管理者のひとりとして、看護の魅力や提供する看護ケアの質について考え、行動し、伝えていきたいと思っています。

今後、複数の疾患を抱えながら入院を繰り返す患者様が増えることが予想されています。私が新人看護師だった時よりも看護を取り巻く環境は変化し、求められる看護も高度になっています。これらの情報をキャッチし常に挑戦し続けられる看護師を育成することが、これからの私の「挑戦」です。

（※疾病や外傷などで危機的な状況に陥っている重症患者様に対するケアのこと）

